

ひき はく

# 曳博だより

2018.9

編集・発行：(公財)長浜曳山文化協会 〒526-0059 滋賀県長浜市元浜町14-8 TEL 0749-65-3300 FAX 0749-65-3440  
【ホームページ】<http://www.nagahama-hikiyama.or.jp/> 【Facebook】<https://www.facebook.com/hikiyamabunka/>



神戸町組孔雀山 舞台障子腰襖《芙蓉四十雀図》

企画展 曳山を彩る絵師たち③

やぎ きほう  
八木 奇峰

〈開催期間〉

十月四日(木)～十一月四日(日)

曳山博物館では、十月四日(木)から十一月四日(日)まで、企画展「曳山を彩る絵師たちⅢ八木奇峰」を開催いたします。

八木奇峰(一八〇四・七六)は、近江国浅井郡下八木村(現長浜市下八木町)出身の画人で、初めは長浜町下船町(長浜市朝日町)にいた京狩野派の絵師山縣岐鳳(一七七六・一八四七)から絵の手ほどきを受けました。岐鳳の下で研鑽を積み頭角を現した奇峰は、師の仲介により松村景文に弟子入ります。景文は、四条派の祖である呉春の異母弟にして弟子という人物で、自身もまた京都画壇、四条派の重鎮でした。この新しい師の下でも奇峰は技量を認められたように、景文の没後に師の偽筆を作らないことを誓う宣誓文を交わした五人の高弟の内の一ひとりとして名を連ねています。この宣誓文の逸話からは、奇峰が景文そっくりの作品を制作できるほど師の画風をよく習得していたことがうかがえるでしょう。

奇峰は景文の門下に入って以降、京都を拠点に活動していました。記録に残る奇峰の最初の画事は、東本願寺白書院杉戸絵の制作で、その他にも大きな仕事としては、桂宮本邸（元離宮二条城本丸御殿）の襖絵および杉戸絵や、御所の襖絵の制作にたずさわっています。その他にも、京都町衆をはじめとする客の依頼に応じて絵を描いていたようです。安政三年（一八五六）に出版された『平安画家評判記』という書物は、嘉永七年（一八五三）の火災で焼失した後、安政二年再建された内裏の障子絵や襖絵を制作した画家たちを歌舞伎役者に見立て、その評判を番付形式で記した書物ですが、奇峰はこの書物の中で十五番目に名前が挙がっています。全五十七名からなる番付中の十五位です。当時の京都にはこの番付に載っている者以外にも沢山の絵師がいたことも考えると、奇峰の評判はなかなかのものであったことがうかがえます。

このように京都で一流の絵師として活躍する一方で、奇峰は故郷である湖北の地にも数々の作品を残しています。自身の出身地である下八木にある慈栄寺の書院の襖に描いた《田家図襖》、竹生島宝蔵寺の文専上人の求めに応じて制作した《蓮鷺図》、下八木村と富田村の村人の依頼で同じく竹生島に奉納された大絵馬《平経正像》などは今

日まで湖北に伝わる優品です。また、長浜曳山祭の曳山の一つである神戸町組孔雀山の舞台障子腰襖《芙蓉四十雀図》と楽屋襖《紅葉鳩図》も奇峰の手による作品であり、長浜曳山祭とも縁のある画人といえます。

今回の企画展では、この舞台障子と楽屋襖をはじめとする湖北に残された奇峰の作品を展示、紹介します。湖北に生まれ育ち、京都画壇の第一線で活躍したこの画人のことを少しでも皆様知っていただく機会になれば幸いです。



神戸町組孔雀山 楽屋襖《紅葉鳩図》

【展示説明会】十月六日（土）午後一時半～  
予約不要です。お気軽にご参加ください！

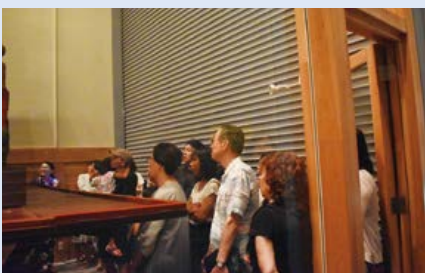
## ナイトミュージアムの開催

曳山博物館の納涼企画「ナイトミュージアム」では開館時間を延長し、夜の展示説明会を開催しました。夏の風物詩である怪談と長浜曳山祭に関わる作品として、長浜城歴史博物館所蔵の三幅対、巨勢小石筆《幽霊・仔犬に鬮・白蔵主図》を展示、紹介しました。この三幅対の主題のひとつとなっている白蔵主は、狂言『釣狐』に登場する妖怪狐で、常磐山の前柱にあしらわれた特徴的な鍔金具のモチーフでもあります。

また、八月十八日には子どもの入館料を無料とし、展示室ではちよつと怖い紙芝居を上演。多くの方に曳山博物館のナイトミュージアムをお楽しみいただきました。



怖い紙芝居のようす（平成30年8月18日）



展示説明のようす（平成30年8月18日）



## 伝承委員会の取り組み

伝承委員会は平成十二年の曳山博物館開館と同時に、長浜曳山祭を催行する山組関係者を中心に組織し、長浜曳山祭を保存・伝承する活動を行っています。山組若衆向け講座「楽衆塾（がくしゅうじゆく）」、広く曳山祭を普及する「市民曳山まつり講座」、委員の造詣を深める「伝承夜話」などを開催しています。

なかでも「楽衆塾」は長浜曳山祭の次代を担う山組若衆を対象として、曳山祭に対する理解を深め、保存・伝承の中心に立てることを目指した勉強会です。講師には、歴史学者や、その道を極めた技術者、歌舞伎役者など、あらゆる部門から招聘し、曳山祭の保存・伝承の気運や情勢をつくりあげています。

平成十七年からは地域の学校との連携を図り、曳山祭の伝承者、支援者の拡大を目指す目的で長浜市立西中学校の総合学習において、曳山文化を色んな角度から学んでもらう「長浜曳山文化教室」を開講しています。年間四講

座の企画から運営まですべてにおいてコーディネートしており、この取り組みは今年で十四年目を迎える長期的な活動となっています。この活動によって、次世代を担う中学生に曳山祭を強く印象付けることができ、保存・伝承の気運の醸成の動機づけとなっていることは間違いありません。



楽衆塾のようす（平成30年7月25日）



「蒔絵体験教室」の作品展示

今年七月には、初の試みとして、第四講で行った「蒔絵体験教室」の作品を最寄りの金融機関で展示しました、ご覧になられた市民の皆様からは、作品の出来栄えに感嘆の声があがっていました。

長浜曳山祭はユネスコ無形文化遺産に登録され、世界的に認められるものとなりました。伝承委員会はこれからも様々な事業を通じ総力を挙げ長浜曳山祭の保存・伝承、普及・啓発に寄与し、市民が誇れる曳山祭となるよう邁進して行きます。

# 「修理ドック」から



平成三十年度は、修理ドックに北町組青海山を収蔵しています。青海山は、楽屋木部修理と舞台障子修理等のために本年度はお預かりしています。今回は、舞台障子修理についてご報告致します。

青海山の舞台障子は、中谷求馬の「紙本金地著色 四季花卉図」です。舞台障子腰襖三面の黒漆塗入隅型額縁内の鏡に金箔を貼り、紅白の牡丹・水仙・杜若・石竹・桔梗・菊・薄などの四季の花卉を描いています。多くの花を描き煩雑になりがちな画面を、下部の濃緑の葉を力強く表現することで絞めているのです。中谷求馬（一七四六〜一八三二）は、坂田郡今村（長浜市今町）出身の画人です。十五歳の時に江戸へ出て、狩野栄川院典信の門下となります。修業を終えて帰国し、今村で作画活動を行い、仏画や人物画を得意とし狩野派の画風の長所を取り入れた作品を多く残しています。

今回の修理では、絵具の浮いた部分をおさえ、上部の御簾のたるんだ部分を締め直しています。



## 年間観覧券のご案内

曳山博物館では、随時 年間観覧券の販売を行っています。

- ◎個人券 一年間二、〇〇〇円（ご本人のみ）
- ◎家族券 一年間三、〇〇〇円（ご本人含めご家族五名様まで）
- ◎法人券 一年間一〇、〇〇〇円（一回につき十名様まで）

### 特典

入館料は六〇〇円のところ、受付でカード提示で一年間何度でも入館出来ます！  
また、企画展のお知らせや解説シートをお送りしています。

お気軽にお問い合わせ下さい。

曳山博物館  
Tel 0749-653300

一年間、入館無料！



## 展示のお知らせ

平成31年、長浜曳山祭の出番山が、ご覧いただけます。

### 曳山の展示

7月2日〜9月30日  
曳山二基公開  
【孔雀山、萬歳樓】

### 次回企画展

10月4日〜11月4日  
曳山を彩る絵師たち③  
「八木 奇峰」



NAGAHAMA HIKIYAMA MUSEUM

# 曳山博物館

ON THE CROSSROAD OF OTEMON St. AND HAKUBTSUKAN Ave.

発行日:平成30年8月25日